

整理番号	23-9	事務事業名	(機能訓練事業) 患者会自主組織支援事業		作成部署	保健福祉部健康管理課	電話	内線808
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名	上村 弘志	課長職名	細川 和夫	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度	H8	根拠法令等	老人保健法					
〃 終了予定年度								
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	介護保険以前から実施していた機能訓練教室(脳卒中後遺症者等対象)の参加者から、自主活動の希望がでて、会が結成された。この「朋友の会」(16年度名称変更「障害者自立の会」)から支援依頼があり、社会参加促進の活動に対して支援を開始した。							

1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	安全で安心できるまち	(第1章)
	節	健康と医療	(第1節)
	施策	保健予防の推進	(第2施策)
目的(ここから成果指標を導きます)	対象(誰、又は何を)	市が実施する機能訓練教室から派生した社会復帰訓練を意図した障害者団体	
	意図(何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	市が支援することで外出の機会を増やし、閉じこもりを解消する。このことで心身の機能回復を図る。	
手段(ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(補助金等の場合は団体等の活動内容)	16年度まで	会が主催する年8回の外出行事について次のような支援を行う。 集合場所への送体制 救護職員として参加 年間事業計画への助言、ボランティア調整など 対象団体数 1団体
		17年度	同上

2 実施(ドゥ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金	90	90		
	地方債				
	その他特財				
	一般財源	108	108	612	612
	合計	198	198	612	612
人件費(概算)	人数(年間)	0.02	0.02	0.02	0.02
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	180	180	180	180
総事業費 +		378	378	792	792

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	会年間活動回数	8回	8回	8回	8回
	支援回数	8回	8回	8回	8回
	会員数	29人	31人	32人	35人
	延べ参加者数	164人	166人	170人	175人
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	会主催事業参加率 (延べ参加数 / 会員数 × 8回)	71%	67%	66%	61%
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)	会員一人当たり経費 (総事業費 / 会員数)	13,034円	12,194円	24,750円	22,629千円

3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等
 市民自身が主体的に健康づくりに取り組む「ヘルスプロモーション」の考え方が、患者会やその他の自主団体にも当てはまる。行政は市民との共助の関係で支援する流れで、当市でもこの原則に沿って支援している。他市町村では、地域特性に合わせてそれぞれ支援している。

【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	主催団体から行政の直接支援を期待されているものであり、代替できない。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	障害者・高齢者のとじこもり予防は社会的課題であり、この課題解決のための支援は妥当である。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。他の手段や委託化などの可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	現在は妥当であるが、団体からの要望、社会状況、財政状況の変化により検証しなおす必要有り。	支援の見直しについて必要時検討。
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない	手段の欄に記載した支援内容のうち、送迎支援について片道みの援助なので、現在は妥当である。今後、他団体への支援との公平性など、社会状況や財政状況で変更の必要あり。その他の支援については受益者負担になじまない内容である。	送迎支援継続の妥当性について、必要時検討。

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	会員は事業に積極的に参加しており、閉じこもり予防に役立っている。	
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	市は会の自主性を尊重しつつ支援を行っている。支援スタッフも、支援内容により非常勤と組み合わせて効率的に行っている。	

【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法等を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	当面は、自主性を尊重しつつ、社会復帰の一環の外出支援を中心に今後も支援する。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	当面行政の関与は必要と考えるも、今後、さらに会の自主性を尊重する方向で検討する。